

農林水産業・食品産業の 作業安全対策をめぐる事情

農林水産事務次官 末松広行

令和2年3月

MAFF

Ministry of Agriculture,
Forestry and Fisheries

農林水産省

農林水産業・食品産業の作業安全を推進する背景

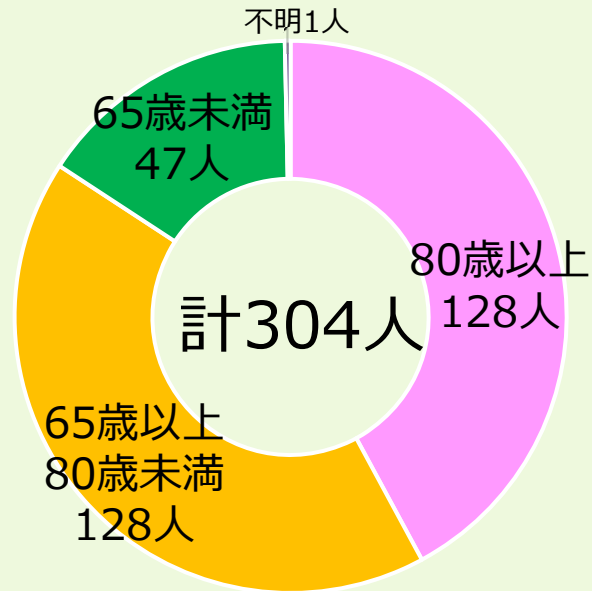
- 就業者の**減少**（農林漁業の就業者はこの半世紀で約 1 / 6 に）
- 就業者の**高齢化**（農業では高齢化率70%）
- 就業者の**多様化**（外国人の増加）
- **人手不足**（全産業平均を上回って有効求人倍率が上昇）
- **新技術**の発展（スマート技術等の活用）

- ◆ 安心して働ける職場にすることで、就業者の確保を
- ◆ 就業者の多様化や新技術の発展を踏まえた新たな対策を

農林水産業・食品産業を、若者が未来を託せる産業に

農林水産業・食品産業における事故の実態①：高齢者の割合

農業：死亡災害発生状況 (平成29年)



84.2% : 65歳以上
42.1% : 80歳以上

資料：農林水産省「農作業死亡事故調査」

各分野の死傷災害発生状況 60歳以上の割合

林業：32.0% (429/1,342人:H30)

資料：厚生労働省「労働者死傷病報告」

木材・木製品製造業※
：25.0% (299/1,196人:H30)

資料：厚生労働省「労働者死傷病報告」
※ 家具を除く

漁業：26.4% (202/764人:H29)

資料：厚生労働省「労働者死傷病報告」、
国土交通省「船員災害疾病状況報告」

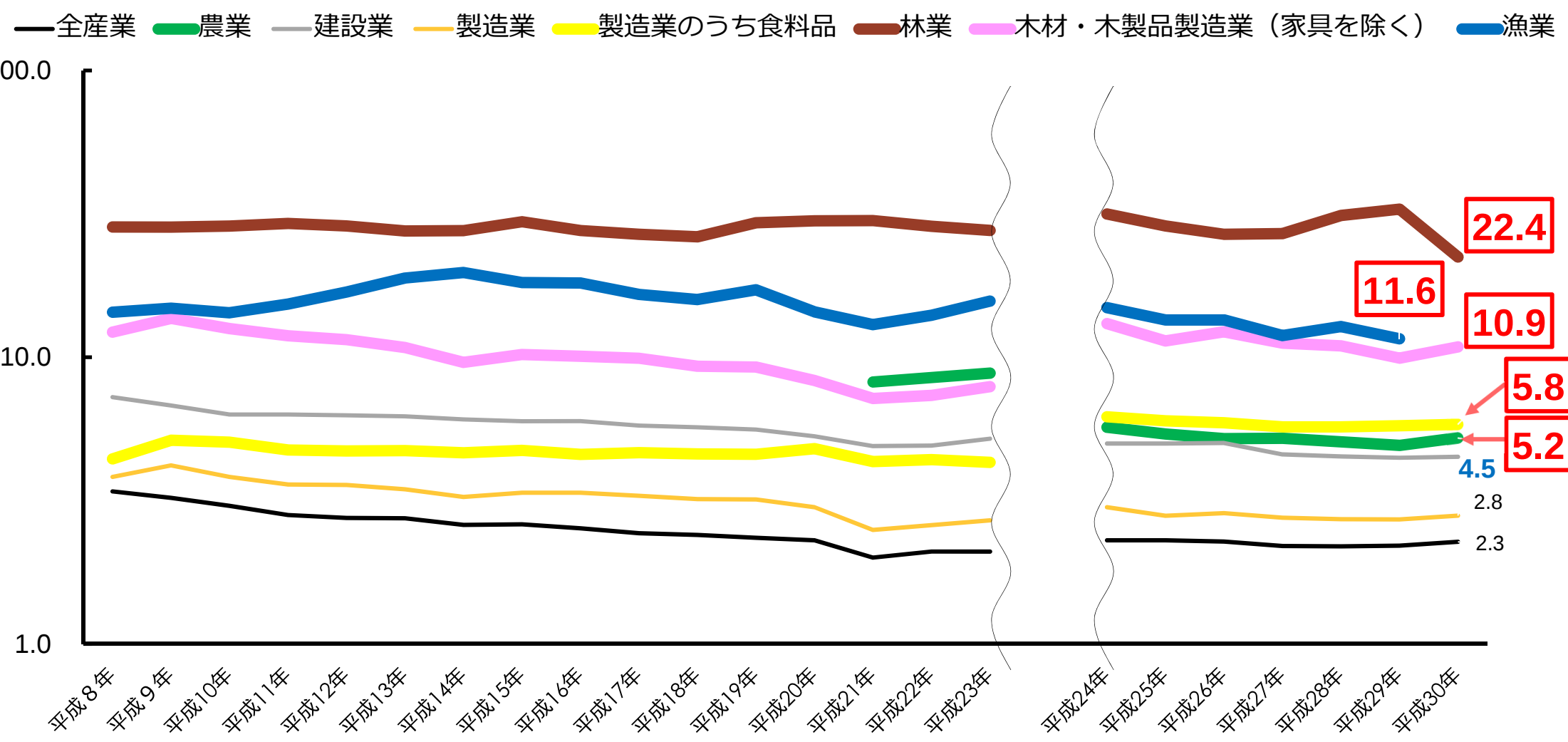
食品製造業
：28.5% (2,327/8,162人:H30)

資料：厚生労働省「労働者死傷病報告」

**農林水産業・食品産業の各分野では、
高齢者の事故が多数を占める**

農林水産業・食品産業における事故の実態②：各分野の事故発生率の比較

業種別死傷年千人率（休業4日以上）の推移



事故発生状況の千人率では、農林水産業、食品産業とも事故発生率が高く、林業は建設業の約5倍も高い

農林水産業・食品産業における事故の実態③：事故の原因（上位3つ）

林業：死傷事故（H30）

- 1位：立木等（35%）
- 2位：チェーンソー（15%）
- 3位：地山、岩石（8%）

資料：起因物（小）別死傷災害別発生状況（厚生労働省）

漁業：死傷事故（H29）

- 1位：漁ろう（52%）
- 2位：荷役（13%）
- 3位：整備・管理（12%）

資料：国土交通省

農業：死亡事故（H29）

- 1位：乗用型トラクター（30%）
- 2位：歩行型トラクター（9%）
- 3位：農用運搬車（8%）

資料：農林水産省調べ

木材・木製品製造業※：死傷事故（H29）

- 1位：木材加工用機械（37%）
- 2位：材料（14%）
- 3位：動力運搬機（12%）

資料：起因物（小）別死傷災害別発生状況（厚生労働省）

※ 家具を除く

食品製造業：死傷事故（H30）

- 1位：通路（17%）
- 2位：食品加工用機械（12%）
- 3位：荷姿の物（6%）

資料：厚生労働省「労働者死傷病報告」（平成30年）

**トラクターなどを用いた作業中に、巻き込まれるなど
機械が原因となる事故が多い傾向**

農林水産省の主な作業安全対策

啓発運動

○ 安全確認運動の実施（農業）

毎年、春（3～5月）と秋（9～10月）を重点期間として、全国の関係機関の協力の下、農作業安全確認運動を実施。



○ ハンドブックによる意識の向上（食品）

「食品産業の働き方改革早わかりハンドブック」において、経営者向けに、労働災害防止講習や危険予知について話し合い、対策を講じることの重要性を提示。

研修・講習

○ 安全研修の開催（茨城県水戸市）（農業）

座学だけでなく、乗用型トラクターの傾斜地における横転疑似体験や歩行型トラクターの挟まれ体験等の危険性も体感できる研修を実施。



○ 漁業カイゼン講習会の実施（水産）

全国で漁業の労働環境の改善や海難の未然防止などの知識を持った「安全推進員」等を養成。

補助事業等との連携

○ 「緑の雇用」事業（林業）

死亡災害（研修生に限らず）が発生した場合、翌年度は不採択



○ 林業・木材産業成長産業化促進対策交付金（林業）

労働安全の取組や死亡災害の発生状況を予算配分に加味する仕組みを導入

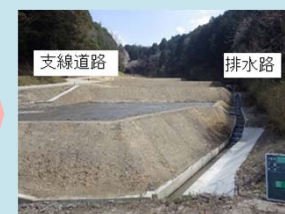
○ 直轄事業の総合評価（林業）

「労働災害対策への取組」を評価に追加し、労働災害がない場合の加点を増

ほ場整備等による対策

○ 機械の転落防止のための基盤整備

基盤整備により、機械の転落の恐れがある排水路と切り離した農道整備を実施



○ 排水路への安全カバー設置による転落防止

排水路に安全カバーを設置することにより、農作業従事者や通行人の転落を防止

作業安全に関連する取組

GAPの拡大

農業において、食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組であるGAP（Good Agricultural Practice）の拡大を推進

○ GAP推進のための施策

- ・ 団体認証の取得推進等、国際水準GAPの取組拡大に向けた支援を実施
(R2年度概算決定額：3億円)
- ・ 無料オンライン研修「これから始めるGAP」を設置

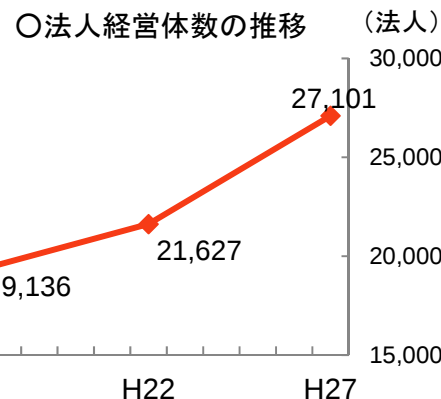


法人化の推進

農業経営の法人化により労災保険の適用となることから、雇用従事者が農作業事故に遭った際の安心につながるメリット

○ 法人化推進のための施策

- ・ 都道府県レベルで農業経営相談に関する体制を整備し、専門家派遣や経営診断、集落営農等が法人化するための費用等を支援



資料：農林水産省「農林業センサス」

注：法人経営体は、農業経営体のうち、法人化して事業を行う者をいう（一戸一法人を含む。）

農業の働き方改革の推進

農業現場の人材確保のため、若者、女性など多様な人材が働きやすい環境となるよう、農業の「働き方改革」を推進

○ 農の雇用事業での対応

- ・ 「働き方改革」実行計画の作成の要件化等

○ テキストやオンラインでの啓発

- ・ 農業の「働き方改革」経営者向けガイドの配布
- ・ 特設サイトで、経営者の皆さんの宣言をPR



熱中症対策

農作業中の熱中症による死亡者数は、毎年20人前後で推移。施設内の作業環境の快適化や、センシングによる作業者の体調チェックなどの技術を開発

農作業中の熱中症による死亡者数の推移



ハウス内快適化技術

空調服等を活用した体表面温度の上昇抑制手法や気化熱を利用する細霧冷房との組み合わせによる、ハウス内での暑熱軽減対策技術を開発・実用化。



新たな作業安全対策技術：スマート技術の活用

農業分野

ロボット農機：危険な作業を無人化・遠隔化



自動運転機能
使用者の監視下で、自動運転が可能なたらく



ラジコン式の草刈機

アシストスーツ：負傷しやすい作業を軽減



モーターを活用したタイプ



空気を活用した人工筋肉を活用したタイプ

林業分野

リモコン伐倒作業車：遠隔での伐倒作業を実現



伐倒作業の安全性を高め、林業従事者の命を守るために倒木方向を制御できる杉間伐ロボット及びロボット用運搬機を開発中。

緊急伝達装置：騒音作業下でも異常を伝達



ジャイロセンサーを搭載し作業時の転倒や滑落などを感知して無線で自動的にSOSを遠隔の仲間に発信

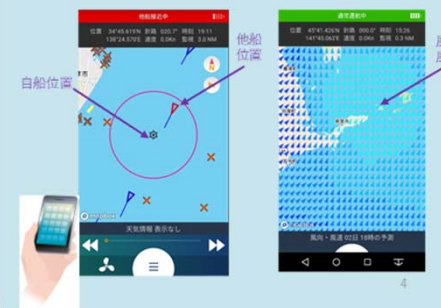
水産分野

水中ドローン：ダイバーの危険作業を回避



生け簀の方塊（アンカー）の確認に活用。潜水士にとって、危険な作業や危険深度における作業の回避が可能。

AIS(船舶自動識別装置)：事故情報等を漁業者に提供



船舶の衝突事故防止のため、自船と周辺船舶の位置情報、定置網や事故多発地域の情報を表示するスマートフォンアプリを開発中。

スマート技術の積極的な活用により安全対策を強化

農林水産省における今後の取組強化に向けて

1. **事故情報の収集・分析を強化し、それに基づく適確な対策を構築**
2. **基本的な安全対策の実施を徹底**
3. 進展著しい**スマート技術**を安全対策においても活用
4. 安全対策と補助事業等との連携をさらに強化することにより、**安全対策に積極的に取り組む経営を育成**
5. 業種の垣根を超えた取組の推進により、関係者の安全対策にかかる**機運を醸成**

MAFF

**Ministry of Agriculture,
Forestry and Fisheries**

農林水産省